

上部消化管(胃)内視鏡検査を受ける患者様へ

〈検査目的〉

上部消化管とは、食道・胃・十二指腸を指します。これらの場所にできる病気(炎症・潰瘍・ポリープ・癌・食道静脈瘤など)を見つけ、適切な治療方法を考えるために行います。

〈方法〉

まず、胃の中を見やすくするシロップを飲んでから、経鼻の場合は鼻腔に、経口の場合はのどを麻酔薬で麻酔します。内視鏡を鼻ないし口から挿入し、上部消化管をまんべんなく観察します。

検査中に何か異常が認められたり、また疑われた場合には必要に応じて以下のような処置を行う場合があります。

- 1) 病変部位に安全な色素を散布し、病変を明瞭にして診断の助けとします。
- 2) 粘膜組織の一部を鉗子で採取し、組織(細胞)の検査を行ったり、ピロリ菌の有無を調べたりします。
- 3) 消化管の動きを止めるためにお薬をまいたり注射をしたりすることがあります。

〈合併症と危険性〉

適切に検査が行われた場合でも、偶発症が発生する可能性があります。内視鏡検査による合併症としては以下のようなことが報告されています。

- 1) スコープによる粘膜損傷や裂傷、まれに穿孔
- 2) 出血
- 3) 検査前にあった疾患の悪化など
- 4) のどの麻酔や鎮痛剤など薬剤によるショック

日本消化器内視鏡学会が調査した全国集計(2003年～2007年の5年間)によるとその頻度は0.005%、死亡率は0.00019%でした。万一、偶発症が発生したときは、高次医療機関への紹介を含めた最善の対応を致します。

〈注意事項〉

- 1) 検査前日は午後7時までに食事を済ませてください。以降はお水かお茶、またはスポーツドリンクのみを摂取してください。当日はお水かお茶は飲んでいただいてもかまいません。
- 2) 粘膜組織を採取したときは、当日の激しい運動や刺激物(アルコール、香辛料など)の摂取を避けてください。
- 3) 検査後1時間は絶飲食です。
- 4) 麻酔(鎮静剤)使用を希望される方は検査後十分に休憩して頂きます。後から眠気やふらつきが生じる可能性がありますので、自転車・バイク・自動車はご自分で運転して来院されないようお願いいたします。

説明医師

工藤 菜穂

上部消化管内視鏡検査について、上記説明を受け納得しましたので、その実施に同意します。

年 月 日

患者氏名

同意者氏名
